

定期的な乳がん検診を 受けましょう。

乳がんは増えています。国立がん研究センターによると、2012年には約8万人が新たに乳がんを発症しました。これは女性の悪性腫瘍の中で第一位であり、12人に1人が乳がんを発症するという計算になります。さらに、乳がんは他臓器のがんに比べて、30-40歳代の比較的若い年齢でも発症しています。乳がんが増えている理由には、欧米スタイルの生活習慣、すなわち晩婚、少子化、未授乳、高年齢初産、食生活などが挙げられます。この背景から考えると、乳がんを発症させないように予防すること(一次予防)は、生活の欧米化を後戻りさせなければならず、自身だけの努力では難しいと思われます。そこで、乳がんを早く見つけて、適切な治療を受けること(二次予防)が重要となります。

早期発見にはマンモグラフィを中心とした検診が重要です。現在、地方自治体が行っている対策型検診では、40歳から75歳まで、2年に一度のマンモグラ

熊本大学医学部大学院
生命科学研究部
乳腺・内分泌外科

教授
岩瀬 弘敬



フィと視触診検査(最近では視触診を行わないこともあります)が勧められています。一方、30-40歳代の女性ではマンモグラフィにおける乳腺濃度が高く(乳腺全体が白く映ってしまいます)、乳がんを描出させることが難しい場合があり、乳房超音波検査が有用であるとされています。しかし、現時点ではその有用性が検討されている段階であり、任意型検診(人間ドックなど)として行うのが良いとされています。乳がんの家族歴がある方や先に述べたリスクが高い方は、対策型以外に任意型検診を受けることも勧められます。

また、乳がんは手術療法、放射線療法、薬物療法などが個々の乳がんのもつ性質に応じて行われており、他臓器のがんに比べて治りやすいと言えます。怖がらずに検診を受け、早期発見と的確な治療で乳がんから命を守りましょう。